

# 海外農林業情報 No.74

## TPP11 の協議

7月12日から13日まで、米国を除く環太平洋経済連携協定（TPP）参加11カ国の首席交渉官会合が神奈川県箱根町で開催されました。米国の離脱を受けて、12カ国で合意したTPP協定をどのように修正するかが協議のテーマとなりました。

「参加国全体のGDPの85%以上を占める6カ国以上の国々の国内手続きの完了」と規定されている今の協定の発効要件を見直す必要があることはどの国も認識しているのですが、問題はこれをどのように変更するのかです。その方法として、今の協定を維持しつつ11カ国で議定書を作成して発効要件等に関して共通認識を確認するいわゆる「議定書方式」と、今の協定を修正して11カ国で新協定を作り直す「新協定方式」という2つの方式が議論されたようです。

TPP11をめぐっては、日本やオーストラリア、ニュージーランドなどは、発効要件以外の合意内容の見直しは最小限にして早期発効を目指す考えなのに対し、米国への市場アクセスの拡大を前提にTPPに参加したベトナムやマレーシアは消極的な姿勢とされ、カナダも北米自由貿易協定（NAFTA）の再交渉との関係で二の足を踏んでいると伝えられています。今回の会合では、「協定の変更は最小限にとどめる」ことが確認されたようですが、その修正の中身までは十分な議論が及ばなかったようです。発効要件のGDP比率の見直しは当然とされていますが、ルール分野での医薬品のデータ保護期間の短縮、一部の譲許関税の留保等が主要な論点となっているようです。

首席交渉官会合は、11月に予定されているベトナムでの首脳会議までには、条約の形を整えることを求められており、次回会合は、8月末または9月初めにオーストラリアで開催し、その方向性を明確にしていくこととされています。

## 米国の小麦・トウモロコシの生産見通しと2017/18年度の世界需給状況

米国農務省（USDA）は7月12日付で2017/18年度の米国の小麦・トウモロコシの生産見通しとそれを踏まえた世界の需給見通しを次のように発表しました。

### ・小麦

2017/18年度の米国の小麦生産量は、6,400万ブッシェル減の17億6,000万ブッシェルになると見込まれています。このうち、デュラム小麦と春小麦は北部平原における深刻な干ばつの影響で、昨年より大きく生産量が減少する見通しとなっていますが、この減少分の一部は、収穫面積と収量が増えた冬小麦がカバーするものとみられます。

世界の小麦生産量は、この米国の減、オーストラリア、中国、EUでの減少が見込まれる一方で、この減少分を、ロシアとトルコで期待される生産増が一部カバーするとみられます。ロシアの小麦はこれまでのところ、記録的な収量となった昨年に近い生育状況となっており、生産量は300万トン増の7,200万トンに達すると予想されます。トルコでも生育状況が良好なことから、生産量は150万トン増の1,950万トンに達すると見込まれます。EUでは、スペインとフランスで生産量の縮小が予想されることから、80万トン減の

1億5,000万トンになるとみられます。オーストラリアでは、乾燥した気候の影響で生産量は150万トン減の2,350万トンになると予想されます。小麦についてはこのような生産状況に加えて期初の世界在庫が十分にあり、需給に大きな不安はないものとみられます。

・ トウモロコシ

2017/18年度の米国のトウモロコシの生産量は、6月30日に発表された作付け調査によれば、実取り用トウモロコシの作付面積は前年より4%減の8,350万エーカーとなっていますが、単収に変化はないとのことでした。しかし、7月半ばから下旬にかけての受粉期に生産地で乾燥した気候が続くと予想から、単収の減の懸念が出てきており、この状況に投機筋の買いが増え、シカゴの先物取引市場は値上がりを示しています。

このような米国のトウモロコシの状況が懸念されますが、2017/18年度の世界全体の粗粒穀物生産は増加が予想されています。したがって、2017/18年度の飼料用の粗粒穀物全体の需給は安定したものと予想されます。

文責：森 麻衣子

<参考リンク>

TPP11 発効要件で溝 首席交渉官会合、11月までに方向性（日本経済新聞、7/13付電子版）

<http://www.nikkei.com/article/DGXLZO18792540S7A710C1EE8000/>

TPP11 発効へ修正協議 12日から首脳会合（日本経済新聞、7/11付電子版）

<http://www.nikkei.com/article/DGXLZO1874885011072017PP8000/>

World Agricultural Supply and Demand Estimate（USDA、7/12付）

<https://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

トウモロコシ、1年ぶり高値圏 国際価格、主産地で減産観測（日本経済新聞、7/12付朝刊）

<http://www.nikkei.com/article/DGKKZO18741320R10C17A7EN2000/>

---

本情報のメール配信をご希望の方は、件名に『海外農林業情報配信希望』と記入した空（から）メールを下記までお送り下さい。ご意見、ご感想もお待ちしております。 E-mailアドレス：[deskb@jaicaf.or.jp](mailto:deskb@jaicaf.or.jp)  
メールを送付された方には、確認メールをお送りします。送信後2週間以内に届かない場合は、お手数ですが03-5772-7880（担当：森・西野）までお電話下さいますようお願い申し上げます。なお、メール配信をご希望の方には、本ミニ情報のほか、セミナーのご案内等、当協会からのお知らせが届くことがありますので、併せてご了承下さい。

発行：(公社)国際農林業協働協会(JAICAF)

〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目10-39 赤坂KSAビル3階